



八峰町9月議会定例会

町長の行政報告を お知らせします

八峰町9月議会定例会が9月1日から9月11日までの会期で開かれ、町長の行政報告や一般質問、補正予算の議案審議などが行われました。町長の行政報告の中から主なものをお知らせします。

8月27日の大雨災害について

能代山本地域の各地で大雨に見舞われ、本町においては、午後4時33分にレベル3大雨警報が発表されたことから、災害対策警戒部を設置し、防災行政無線と町公式LINEにより警戒を呼びかけたほか、一部の消防団へ出動を要請し、地域の巡回や水路への土のう設置をお願いいたしました。また、午後6時過ぎには、本館、椿、椿台地区に高齢者等避難を発令し、ファガスを避難所として開設いたしました。午後7時半頃からは雨脚が弱まり、避難した方がいなかったことから、午後9時には避難所を閉鎖したところでありました。

詳細な被害状況につきましては、現在調査中ですが、水沢地区において床下浸水1棟を確認しております。

今後は、秋雨前線や台風の影響を受けやすい時期を迎えることから、気象情報を注視し、引き続き警戒してまいります。

広域的まちづくり推進に関する連携協力協定の締結について

6月25日、「鰐ヶ沢町・八峰町・深浦町の広域的まちづくり推進に関する連携協力協定」を締結いたしました。この協定は、世界自然遺産「白神山地」の豊かな自然や日本海の恵み、JR五能線、国道一〇一号など共通する地域資源を有している三町が、これらの資源を地域住民や民間事業者との協力の下で保全・活用し、地域の魅力向上や発展につなげるために締結したものであります。

本協定では、基幹インフラの整備及び交通ネットワークの強化、白神山地と日本海の恵みを生かした産業振興、地形と歴史・文化を生かした広域観光の推進、人々の交流の深化と防災・安全対策を連携事項に掲げております。

鰐ヶ沢町、深浦町とは、これまで国道一〇一号並びに西津軽能代沿岸道路の整備促進の働き掛けや観光振興において、連携して取り組んでおりますが、今回の協定締結を契機に、より一層、連携を強化してまいります。

町長ミーティングの開催について

本事業は、若い世代が十年後も「住みたい」、「戻ってきたい」と思えるまちづくりの指針を得ることを目的に実施しております。

6月には20歳を迎えた4名と、8月には高校生10名との対話を行い、参加者からは、豊かな自然や食といった町の強みを誇る声があったほか、交通の利便性向上や若者向けの娯楽・買い物環境、交流拠点の充実を求める意見がありました。

また、希望する職種がないことが町外流出につながっているという厳しい指摘に加え、SNSを活用した情報発信や、自然環境を生かした取り組みの推進など前向きな提案もいただきました。

一方、町からの情報提供において、参加者が町の多様な施策や取り組みをあまり認識していなかったことから、若者に対する情報発信や周知の在り方が大きな課題であると痛感したところでもあります。本町に何が不足しているのか、それを探る上で若い世代の柔軟な

地方創生伴走支援制度について

当制度は、国の職員が数名でチームを組み、これまでの職務経験を生かして副業的に地方創生に携わり、課題を抱える中小規模の自治体に寄り添った伴走支援を行うもので、令和7年度から実施されている事業であります。

二期目となる今年度は、全国で97市町村が支援の対象となり、このうち本町は、今年度新たに選定されました。

本町が直面している「農林水産業における深刻な担い手不足」や「六次産業化の遅れに伴う特産品・お土産品の不足」、「観光客の利便性を左右する二次交通の脆弱性」といった課題に対し、3名の国の職員から助言をいただいております。

3名とは、これまでに計6回にわたるオンラインでの打ち合わせを実施したほか、6月と7月の2回のわたり本町を視察し、関係者との交流を通して理解を深めてきました。

今後は、11月に課題解決に向け

9月議会定例会に 提出した主な議案

- 令和8年度一般会計補正予算 6億4,211万4千円を増額
- 令和8年度特別会計補正予算・八峰町介護保険事業 4,110万4千円を減額
- 令和8年度八峰町簡易水道事業会計補正予算 2,000万円を増額
- 令和8年度八峰町下水道事業会計補正予算 1,222万1千円を減額
- 八峰町カスターハラスメント及び不当要求行為等防止条例制定について
- 工事請負変更契約の締結について
- ※本ページに未掲載の行政報告
- 八森地区の海岸における一斉清掃について
- 能代市山本郡消防操法大会について
- 戦没者追悼式・平和祈念式典について
- 全国学力・学習状況調査について
- 八峰町小学校統合協議会について

SEA TOSUMMI T開催について

9月12日・13日、白神エリア初の「SEA TOSUMMIT」が開催されます。これまで北海道から沖縄県まで、全国28都道府県から181名、117組のエントリーがあり、白神山地と日本海を舞台とした本大会への関心の高さを感じております。

大会開催に向けては、モンペルや青森・秋田両県などの関係機関に加え、地域の皆様のご協力をいただきながら準備を進めており、参加者のうち約50名が町内に宿泊する予定となっていることから、本町への誘客や交流人口の拡大にもつながるものと期待しております。

今後は、このスポーツイベントを契機として、日本海から白神山地へとつながる本町の自然環境を新たな観光コンテンツとして磨き上げ、海や山を活用した体験メニューの充実や受入環境の整備につなげてまいります。

上下水道事業経営審議会の設置について

本町の水道事業につきましては、人口減少に伴い料金収入が減少していく一方で、施設の老朽化に伴う更新費用の増大や災害に備えた

耐震化への対応など、今後ますます厳しい経営状況になることを踏まえ、適正な水道料金について審議していただく諮問機関を初めて設置したものであります。

一回目の審議会を8月4日に開催し、委員には有識者として東京大学大学院特別研究員の高橋今日子氏をはじめ、住民の代表の皆様など8名を委嘱し、適正な水道料金について諮問を行ったところであります。

審議会では、水道事業の経営状況や持続可能な経営を行っていくための料金引き上げの必要性について説明いたしました。

委員の皆様からは一定の理解が得られ、全員が料金引き上げに同意する形となりましたが、一方で「高齢世帯や生活困窮者などへの配慮が必要ではないか」、「広く住民の意見を取り入れるためのアンケートを実施した方がよいのではないか」など、住民の目線に沿った貴重なご意見もありました。

今後も、審議会の中で様々な意見を重ねながら、今年度中には答申をいただけるものと考えております。

社会教育施設統合のワークショップについて

6月25日、社会教育施設統合に向けたワークショップを開催いたしました。現在、町にはファガスと峰栄館、二つの社会教育施設があります。両施設とも建設から三十年以上が経過し老朽化が進んできていることや、町の人口が大きく減少してきていることなどから、二館体制の維持が難しい状況にあります。

こうしたことから、町では生涯

「20歳を祝う会」について

8月14日、峰栄館において20歳を祝う会を開催いたしました。今年度の対象者は46名で、うち40名が出席いたしました。

式典では、出席者を代表して嶋田輝人さんから「変化を恐れず自分をアップデートし、矛盾にあふれる社会でも、強くしなやかに生きていきたい」、「困難や挫折もあるだろうが、仲間たちと再会できた喜びと激励を思い出し、乗り越えていきたい」という力強い誓いの言葉がありました。

頼もしく立派な姿を拝見し、大変誇らしく思うとともに、今行っているふるさと教育の大切さを実感した次第であります。

式典開催にあたり、企画運営に御尽力いただきました実行委員の皆様には、厚くお礼を申し上げます。